

令和3年第1回名張市快適環境審議会会議録（概要）

1. 開催日時 令和3年7月2日（金） 午後2時から4時30分まで
2. 開催場所 名張市役所2階 庁議室
3. 出席者
 - 委員 近藤 恵美
 - 朴 恵淑
 - 大西 民男
 - 宮崎 民男
 - 田畑 博
 - 大西 和美
 - 福廣 勝介
 - 事務局 地域環境部長 宮崎 正秀
 - 環境対策室長 海野 隆広
 - 環境対策室 久保 厚史、森永 陸斗、城戸 悠馬
4. 欠席者
 - 委員 永楽 通宝
5. 内容
 1. 委嘱状の交付
 2. 市長あいさつ
 3. 委員紹介
 4. 第1回名張快適環境審議会
 - (1) 会長及び副会長の選任
 - (2) 快適環境基本計画の諮問
 - (3) 会長・副会長あいさつ
 - (4) なばり快適環境プラン中間見直しについて（資料1）
 - (5) なばり快適環境プラン中間見直し（たたき台）について（資料2）
 - (6) 報告：第三次なばり快適環境プラン実行計画令和2年度成果報告について（資料3）
 - (7) その他

1. 委嘱状の交付

○事務局

委員の委嘱状交付を始めさせていただきます。

○市長

近藤恵美様。名張市快適環境審議会委員に委嘱します。但し、任期は令和5年5月31日までとします。令和3年6月1日、名張市長亀井利克。

朴恵淑様、以下同文であります。よろしくお願いいたします。

大西民男様。よろしくお願いいたします。

田畑博様。よろしくお願いいたします。

大西和美様。よろしくお願いいたします。

福廣勝介様。よろしくお願いいたします。

2. 市長あいさつ

○事務局

市長からごあいさつ申し上げます。

○市長

みなさま方に快適環境審議会委員をお願いいたしましたところ、お忙しい方ばかりでございますのに、再任の方、新任の方、快くお引き受けいただいたこと衷心よりお礼申し上げます。

また、早速に今日は第一回の快適環境審議会を開催いたしましたがお忙しい中、万障繰り合わせいただき出席いただきましたこと重ねてお礼申し上げます。

1300年前に奈良に都がおかれていたその当時、名張までが首都圏、東大寺領の荘園でございました。その時に、名張は肥沃の土地になっておりまして、農産品が多く生産される土地でありました。それはなぜかといいますと、さらに100年遡り、半島から渡来した夏見氏が大陸の高い技術を持っていました。土木技術、農業生産技術の高い技術を持った方々が、この水源豊富な地域ならば農業を発展することができるかと定着したわけでありました。このようなことで、都は、肥沃な土地で農産品が多く生産されている名張が魅力であったわけですね。

わたしは、名張市は近代農業の発祥の地であったと思っている。名張市民の方にも誇りを持っていただきたいと考えているわけでありました。この水源のまち名張に似合った街づくりを進めてきていただいたわけでありました。これについて、非常にありがたく思っています。

一方で、2015年、国連において持続可能な開発目標SDGsが採択されました。最近

になって国や政府が力を入れており、朴先生は遅いとおっしゃいますが、政府としては、今の骨太の方針の中にもグリーン社会構築を日本の発展の原動力としていくといった今までにない表現を使っている。

日本は、今からさかのぼること100年余り前からSDGsという考え方を持ってやってきた。山を荒らさず、川を荒らさず、村を壊さず、人を殺さず。といった考え方でまちづくりを進めてきた。日本は先駆的であると考えている。

このような大きな流れができてきた中、県とも力を合わせながら、取組を進めていかなければならないと考えておりますので、皆様方の一層のご協力を賜りますようお願いいたします。

3. 委員紹介

○事務局

改めまして、委員の紹介をさせていただきます。お手元にあります、名簿の順番にご紹介させていただきます。

近畿大学工業高等専門学校教授、近藤恵美様です。三重大学特命副学長、朴恵淑様です。本日は公務により欠席ですが、三重県伊賀地域防災総合事務所環境室長の永楽通宝様です。続きまして、国土交通省木津川河川事務所副所長大西民男様です。続きまして名張市小中学校校長会の宮崎慎治様、名張市商工会議所からお越しいただいております田畑博様です。しぜん・ふしぎ・ワンダーランドの大西和美様です。公募委員の福廣勝介様です。

以上8名の委員にご審議をお願いします。

なお、事務局は、地域環境部環境対策室が担当させていただきます。

本日出席させていただいておりますのは、地域環境部長の宮崎、環境対策係長の久保、事務を担当させていただきます、森永と城戸です。最後にわたくし、環境対策室長の海野です。よろしくをお願いします。

4. 第一回名張市快適環境審議会

○事務局

(1) 会長および副会長の選任

名張市快適環境審議会規則第4条1項に基づきまして会長及び副会長の選任をさせていただきます。会長及び副会長は委員の皆様の互選により選出することとなっておりますが、どのようにいたしましょうか。

○委員

事務局の案はどのようになっていますか。

○事務局

前回の快適環境審議会においても会長、副会長をお願いしておりました朴委員を会長に、

田畑委員を副会長に推薦いたしたいと考えております。推薦の理由といたしましては、朴委員におかれましては、従来からご指導を賜っておりまして、名張市の状況を熟知されております。現在の当市、また世界を取り巻く環境の状況や対策など、委員がお持ちの最先端の知識と、それと当市の状況を基に当市にマッチした計画の策定をお纏めいただけるものと考えております。

また、田畑委員におかれましても、従来からご指導を賜っておりまして、商工会議所の環境問題委員会会長としてご活躍いただいておりますとともに、ご自身が経営される事業所におかれましても、三重県の環境認証制度M-EMSを取得されるなど、環境問題のご造詣が深く、事業者の、また市民の視点からご指導いただけるものと考えております。以上のことから推薦させていただくところでございます。委員の皆様、いかがでございましょうか。

○委員

異議なし

○事務局

それでは、朴委員に会長を田畑委員に副会長をしていただくということで、お二人につきましては、ここで指定の席へご移動をお願いします。

(2) 快適環境基本計画の諮問

○事務局

それでは引き続きまして、市長より本審議会で今後ご審議いただく第三次名張快適環境プランの中間見直しの諮問を行います。

○市長

名張市快適環境基本計画について（諮問）

名張市快適環境基本計画の中間年度での見直しに当たり、名張市快適環境基本条例第12条第2項の規定に基づき、名張市快適環境基本計画について、貴審議会の意見を求めます。参考として本計画は、計画期間の中間である令和3年度までの実施状況や目標達成状況をもとに全体的な見直しを行うほか、地球環境、社会情勢の変化や本市を取り巻く状況の変化に応じて、柔軟に施策や推進方法を見直すものとします。どうかよろしくをお願いします。

○事務局

それでは、「名張市快適環境審議会規則」第5条第1項に基づきまして、会長が、会議の議長となりますことから、これより先の議事進行につきましては、会長にお願いしたいと思います。資料1「なばり快適環境プラン」

の中間見直しについて」、資料2「なばり快適環境プラン中間見直し（たたき台）」、資料3「第三次なばり快適環境プランR2達成状況・実施状況報告書」につきまして、事前に送付させていただいておりますが、本日お持ちでない方は、事務局でご用意させていただいておりますのでお知らせください。

それでは、会長・副会長には、議事進行をよろしく願いいたします。

○市長

それでは、よろしく申し上げます。

○事務局

ここで、市長は、公務のため退席させていただきます。

(3) 会長および副会長のあいさつ

○会長

簡単に挨拶をさせていただきます。改めまして、皆さま、名張市の快適環境審議会。大変重い審議会であるのですが、前回に引き続き微力ながら会長を務めさせていただきます。三重大学の朴恵淑と申します。文字通り、生まれ育ったのは韓国なのですが、縁あって、日本に留学して依頼38年がたちますので、生まれ育った国より日本のほうが長くなっています。

三重県は、26年目になります。自分は三重人と紹介しています。苗字の朴は韓国読みで、名前の恵淑は日本語読みで、日韓関係いい時もあれば悪い時もありますが、いつも出身を忘れず、日韓の懸け橋になりたいと考えています。

名張市の快適環境プランは、2017年に10年間を見据え計画を立てました。亀井市長からもありましたように、持続可能な開発目標SDGsが大きくクローズアップされています。その流れを受けまして、2026年まで待つことなく、中間見直しをしようという形になりました。

名張市をSDGs未来都市に選定できるようにしていきたい。それには、副委員長を始め委員の皆様、事務局、名張市の市民の方からの熱烈な愛がなければ無理なのですが、夢ではなく、確実に取りたいと考えていますのでよろしく申し上げます。

○副会長

副会長を拝命しました田畑です。先ほど、会長がおしゃっていただきましたとおり、皆様と一緒に任期いっぱい努めてまいりたいと考えていますので、ご指導ご鞭撻をよろしく申し上げます。

(4) なばり快適環境プラン中間見直しについて(資料1)

○会長

事項所に基づき進行します。なばり快適環境プラン中間見直しについてですが、まず、事前に委員の皆様から一言ずつ自己紹介いただきます。

○委員

近畿大学工業高等専門学校の近藤でございます。

建築環境が専門になります。人の周りの暑さ寒さを研究テーマにしております。屋外の調査もフィールド調査もいたしております。実は、大学院生のときに、博士号をとった後、名張の町の気候調査をしました。旧町のほうと市役所のあるこの辺りとの気候がどのように違うのかを調査したことがあります。生まれは名古屋なのですが、今年の春から名張に住んでいます。まだ、名張のことがよく見えてないかもしれませんが、広い視点で委員会に尽力させていただきたいと考えております。子供の温熱環境に足元を置いています。子供たちがどんなまちを求めているのか。健康に暮らせるまちってどんなまちなのかに興味があります。

○会長

次の順番はわたしですが、先ほどのあいさつに代えさせていただきます。名張らしさ、名張の強みを更に強く、弱みを補っていくようなプラットフォームにしたい。縦割り、横割りで作成するのではなく、名張の今後に向けた計画になるように考えていきたい。

○委員

国土交通省の木津川上流河川事務所ということで水資源機構の木津総合事務所はご存じ頂いていますが、わたしの事務所は地元の方もご存じない方も多。PR不足と反省しています。仕事は川の整備をしています。整備だけでなく、川の水質やどんな動物がどの辺に住んでいるのかといった、環境のデータになるような調査も毎年実施し、HPでも公開しています。そのあたりももっとPRしていかないといけないと考えています。

昔は、川を工事イコール環境破壊といった面もありましたが、河川法に、環境保全という考え方が追加されたということもあり、生態系への影響を避けつつ、近隣の方にも迷惑をかける工事が求められています。

関心ごとは、名張川の黒田地区、朝日町の周辺の引堤事業をしています。環境だけでなく、まちの風景そのものが変わるものであるため、安全安心に過ごせる、まちづくりを川だけでなく、地域の皆様の意見を伺いながら進めていきたいと考えております。

○委員

すずらん台小学校校長の宮崎です。今年からすずらん台小学校へ赴任しています。30数

年教育現場で働いているため、環境といえば、学校環境、学校教育の中での環境となります。クリーン大作戦であるとか、環境教育、ごみ拾い活動、環境美化も行ってきました。

今は小学校ですが、30数年間は中学校で理科と技術を担当していました。技術の中でも木材資源であるとか森林伐採などのサイクルを教える授業がありました。

昨年度までは桔梗が丘東小学校でいたのですが、東山公園の里山活動をしていました。

里山活動は、名張の小学生は、もともと自然と近い中で、生活をしているが、里山では、また特別な体験ができます。里山は、何日間も地域のみなさんが森林を整備していただいて、子供が怪我をしないように、蜂や蛇などがでないようにしていただいています。このような皆様の気持ちがあつての行事であり、人とのかかわりも勉強させていただいていなくす。

また、すずらん台小学校には学校林があるため、さるやシカが出ます。この間も朝から花火を打つなど、さるを追いかけしている日もある。そういった中で、子供たちは、自然を感じながら環境を勉強させていただいていると思っています。審議会も微力ながら務めさせていただきたいと考えております。

○副会長

わたしは再任ということなのですが、前回に引き続きよろしく申し上げます。わたしの会社でもM-EMSを認証取得しており、会社としても取り組んでいます。

先ほど、大西副所長もおっしゃっていただいていたのですが、商工会議所の中で、引堤に関わっており、木津川上流河川事務所とともに、岐阜県へ事例の視察へ行ってきました。旧町は、名張の玄関ですので川づくりの景観、トイレ、道路、それに伴う整備など、木津川上流事務所と連携し進めてまいりますのでよろしくお願いします。

○委員

大阪に住んでいたが、仕事の都合で2000年に名張市に引っ越してきた。ずいぶん住んでいるが、仕事が伊賀市であるため、名張市のことをあまり良くわかっていません。

わたしたちの会、しぜん・ふしぎ・ワンダーランドは、前代表のつつじが丘に住んでいた福田さんが2005年に立ち上げたものです。わたしは、YOUを見て興味を持ち、電話したらすぐにスタッフに引き入れられました。ほかの人もこんな感じで入ってきた人が多く、最初は小さな活動を行っていました。難しいことをせず、低い目線で活動を行っており、イベントの参加者が気に入って、そのままスタッフに入るといったことが多くあります。

主な活動は、2015年まではやさしい自然教室を開催し、シャックリ川を歩いたり、掘ったり、生き物観察をしたり、農業支援活動なども行っており、0歳からすべての方を対象とした活動をしている。車いすの人や目が見えない方も参加してくれており、どのような方でも何かを感じていただけるよう活動を行ってきました。

2015年で一旦解散しよう思っていました。これまでの、月2回ペースのイベントを改め、現在は、イベントを絞り、東山公園の伐採などの整備や高齢者の農家のお茶畑の手伝

いなどを行っています。いろんな人に支えていただきながら、自分たちのしたいことをやっているだけですが、スタッフも高齢化しているものの、今後も何かお手伝いが出来たらと考えています。

最近の関心ごとは、ごみです。名張市のごみのルールが変わったのは、反対でした。みんなが、課題とを感じるようなことを一つでも解決していきたい。自然と都市が隣り合わせになっている名張市の良い面を活かしていきたいと考えています。

○委員

リタイアして10年たちます。サラリーマン時代はURにいて、団地を造っていました。

名張で団地というと、一戸建て住宅をいいますが、中高層の建物の屋外環境の計画、設計、保全をしていました。物理的側面から、良い丘陵地をとばして、ニーズがあるというものの団地を造るということに引っ掛かりを感じていた。もともとは屋外の植物に関する仕事を40年やってきたが、途中から、環境は市民住民が関わらないと何もできないと思い出して、35年ほどの歴史のある「川の会なばり」3代目会長を務めています。また、NPO法人近畿水の塾の代表もしています。これは、NPO法ができて第一号のもので、地方自治体の環境系職員の集まりです。面白い勉強会を数多く開催しています。内藤正明先生の講演会をしてもらったりもしました。

現在は、名割川の引堤による「名張市の顔」でもある川景色の喪失を懸念しています。

環境を考えるのは、環境の三間を考えること大切だと考えています。環境の主演は誰かという、やはり人間だと思う。また、時間の単位を考えることも重要です。さらに、空間の単位についても、最高裁で選挙の格差の判断が示されているが、日本は緑が多いところですかと聞くと、日本の2/3は緑なので確かに多い。しかし、大阪府では緑が2割しかない。どの空間で考えるかも大切だと思います。そこで、面積当たりの選挙権を設定したほうが環境を守れるのではないかと考えています。人のいない地方は切り捨てられるのではと懸念しています。

アイヌ民族の方がおっしゃっていたが、アイヌ民族は「その地で循環のできる範囲の食糧しか採取しない」ということです。これは、「食べられる範囲しか採取しない」というのではなく、その地で生まれるだけのものしか食べないといった話を伺いました。

また、山好き、木好き、酒好き、景色屋になりたいと考えています。

名張市には、適正規模・理想の時代がすでにあつたのではないかと考えている。それは、市長が言っていた夏見氏が渡来した時代なのかもしれない。未来がどんどん良くなるという時代ではないのかもしれない。

「池の鯉は池を実態しているが、池の総体を知らない！語れない！」という言葉がある。生態学的俯瞰、総体性を考えることが重要であるとする。

SDGsを学びたいと考えている。

ネイチャーを自然（しぜん）と呼んだ人がいるが、日本には自ずからなるという自然（じ

ねん) が古くからあった。天気が良いですねといったあいさつのように「今日も良い景色の中で暮らしていますね」というあいさつの町を目指したい。暮らしが景色を作るという本がありますが、ええ景色はそこの人々がええ暮らしをしている。快適環境の実現には、快適景色の実現。快適景色の実現には、住民の快適暮らしの実現ことが肝要と考えている。

○会長

なばり快適環境プラン中間見直しについて(資料1)を事務局のほうから説明いただき、委員の皆様から意見をいただきます。

○事務局

それでは、事務局から説明申し上げます。

説明につきましては、ご審議いただく時間を確保させていただくことや事前委資料を送付させていただいていることなどから、最小限にとどめたいと考えておりますので、説明が不足している点があればご指摘いただければ幸いです。

まず、資料1の名張快適環境プランの中間見直しについてですが、名張市では、平成4年7月に名張市快適環境基本条例を制定し、条例に基づく、環境基本計画として「なばり快適環境プラン」を策定しました。平成29年3月には、現在の、第三次なばり快適環境プランを策定しています。この第三次なばり快適環境プランの計画期間は、平成29年度から令和8年度までとなっていますが、大気・水質・土壌・騒音・振動・臭気などの身近な環境問題への取組のみならず、循環型社会の構築、低炭素社会の構築、エネルギーの有効活用、生物多様性の保全など、持続可能な社会の構築が急務となっており、これらの激しい環境情勢の変化に対応するために、中間年度にあたる令和3年度に見直しを行うこととしていました。

また、国においても平成30年4月に第5次環境基本計画が策定され、三重県においては、令和3年度までの環境基本計画を、目まぐるしく変化する環境情勢に対応するため、2年早め令和2年度に環境基本計画の改訂を行っております。

このような中、今回の中間見直しをお願いするところであります。

名張市の快適環境プランの特徴といたしましては、計画の対象範囲でもお示ししている通り、一般的な環境の分野だけでなく、歴史や文化、防災・防犯なども広義の環境ととらえ、目標などを設定している点があります。

今後のスケジュールにつきましては、本日第1回の審議をいただきました後、第2回の審議会を9月、第3回の審議会を12月に開催頂いた後、令和4年3月の議会において報告を行いたいと考えております。

ご審議いただく時間が十分でなかった場合は、紙面や電子メールなどでご意見を賜りながら進めてまいりたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

(5) なばり快適環境プラン中間見直し(たたき台)について(資料2)

○会長

なばり快適環境プラン中間見直し(たたき台)について(資料2)まで事務局の説明をいただき、資料1と資料2をあわせて、委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。事務局引き続き説明をお願いします。

○事務局

それでは、事務局から引き続き説明申し上げます。まず、P.4におきまして、中間見直しの趣旨を記入しております。これにつきましては、計画策定時には、定まっていなかった持続可能な開発目標(SDGs)やカーボンニュートラルといった環境施策において大きな影響が生じる考え方を中間見直しに反映するとの考え方を記載しております。

続きまして、P.5〜については、SDGsの考え方は新しいものですが、実際の活動内容については、現在のプランの中にも取り入れられ、実践されているものも多くあるため、プランの取組内容がSDGsのどの目標やターゲットを推進するのかを分かりやすく整理しました。

P.8〜P.11は、中間見直しであるため、環境目標(5目標)や施策の基本的方向(大項目9、小項目22)、施策項目(37項目)の柱となる部分については変更していません。

P.16以降については、SDGsやカーボンニュートラルなどの環境施策の変化の中、今盛り込むべき内容を追加しました。また、具体的な指標について、新たな指標(取組)があれば追記し、中間目標を定めていた個所について、中間値(実数)に改めました。

目標値につきましても、令和元年度及び令和2年度(未定稿)の取組実績(数値)をお渡ししておりますので、本実績を基に、目標値(R8)の変更が必要と思われるものについてもご意見をいただきたいと考えております。

○会長

皆さまとは3回会議を持つわけですが、コロナが落ち着いて、今日のように対面がベストですが、オンラインという形になるかもしれません。せっかく今日、顔を合わせているので、中間見直しに係るものももちろん大切ですが、皆様が日ごろ感じていることなども大変参考になりますので、おっしゃっていただきたいと思います。

P.4の計画の考え方というところですが、簡単に書かれています。なぜ、中間見直しを今するということですが、永久に続く名張ですので、100年200年単位で考えるということもあります。しかし、とりあえず2030年SDGs、2050年を見据えて日本も、世界も脱カーボン、カーボンニュートラルといった言葉が並ぶ時代になりました。

市長からもグリーンとかいう言葉があったが、グリーン、デジタル、地方、子供、という大きな柱で行くといっていた。名張市は幸せな、恵まれた町。でも、どんどん年をとっていく。活気があって年がとった人が幸せに暮らせる。理想郷。環境という点で、どのように実

現するのか。じゃっかん説明不足だと思う。

小学生でも、中学生でもなるほどと思ってもらえるように肉付けが必要。骨っばいところは書いてある。脱炭素2050年ゼロをどのように目指すのかというと、人それぞれだと思いますが、生活をカツカツにしてゼロを目指すものではない。ゆとりを持ちながらどのようにするのか。環境の側面だけでなく、経済と環境と社会のバランスの取れた名張を見据えた中で、環境を考えていくということを書くことが必要だと思う。この計画に沿って活動をすれば46%の二酸化炭素削減が達成できるのかというと、そのようなことは書けない。

この計画案を見て、名張市はやる気があるという感じを受けた。このやる気を少しでも実現できるよう、我々委員が、もう少し優しく市民に伝わるように皆様のご意見をいただきたいと思います。

わたしは表紙を重く見ます。表紙と裏表紙、青蓮寺ぶどうや滝、ナッキーなどがいるが、市としては、市章よりもキャラクターのほうが良いと思っているのか。

○事務局

キャラクターは、硬くならないところが良いと思っている。

○会長

名張市の市章がどこかにあってもよいと思う。うまく配置してほしい。

○委員

裏表紙の話。上に市民というのがありますが、表現は市民とするのか。住民と書いたほうが良いと思う。市民を入れないといけないのであれば、併記すれば良い。市民は、昼働きに来る人も入るのか。プラス人という意味で住民と書いてはどうか。

○事務局

市民というと住まわれている人という印象かもしれないが、市民展覧会というとお勤めの方も含めている。計画を作るときは、名張市に関わっていただいている方という意味で市民と使っている。国が使う場合は、住民という言葉も使うが、市民が=住んでいる人という限定的なものとは考えていない。市の計画ではほとんど市民と使っているが、住民という標記がダメだということはないので皆様からのご意見をいただきたい。

○委員

P. 4からなのですが、住んでいる人がどのような環境を求められているのが重要です。計画を作っても市民が知らないということがよくある。我々行政が反省すべきこと。

計画策定から何年かたっているのに、これまで名張市が調べてきたデータを反映すればよい。興味がある方がいないと進まない。行政任せになってしまう。賛同してもらえない方が

いるほうが、計画として良いものができる。過去の調べがあるようであれば、次回で良いので情報提供をしてほしい。

○会長

パブコメとか、県でやっても応募が少ない。とって、関心がないのかということそうでもない。5年前のことであるが、パブコメなどでどのような意見があったのかなども参考になるかもしれない。

○委員

環境は人のとらえ方によって広い。わたしたちの土木の面であれば、自然環境となるが、生活をしている人はごみの問題であるとか。一つの計画で網羅するのは無理だと思うが、見えるビジョンを作らないとだめだと思う。

○事務局

アンケート市民に2000人アンケートをとっている。その中に、環境のことも入っている。この計画の中にも含まれている。計画値に含まれている。

実績も2年度のものも入っている。市民の人がどのようなところに関心があるのかは。これでも確認していただけます。毎年、クリーン大作戦をしているが、去年・今年コロナ禍でできなかったが、市民の人にたくさん参加してもらっている。県のごみ拾い活動の指標を見ると、県全体で3万人が参加したこととなっており、うち、5000人が名張市の市民であります。ここからも、名張市民が環境に関心が高いのが伺えます。

ごみの排出量についても、全国的な統計によると、30年度の統計では、家庭ごみ県下の平均が750グラムの中、名張市は491グラムで県下一番です。全国でも17番目であり、市民の意識が高いといえます。これは、特に市の計画が良いからというものではないと考えています。

○会長

これらの数値を参考資料として、計画の合間に取組を入れていったほうが良いものができるのではないかと。

○事務局

以前、広報に載せたら、市民が頑張っている結果なので、もっと載せるべきといった声もいただきました。

○会長

県規模では廃棄物削減に苦慮している。よく、なぜ名張市はこのように少ないのかという

話になります。欧米、ドイツより少ない。これは凄いことですが、この凄さが名張の方は知らないのではないか。

○事務局

いろいろなデータをコラムみたいな形で入れさせていただきたい。

○会長

福廣委員からも話がありましたが、花筏の写真もある。それぞれの写真に意味があると思うが、写真を大幅に変えるのは大変なのかもしれないが、いつも同じ写真というのも問題があると思うが、どうか。

○事務局

今年は、福廣委員の家の近くでホテルが飛ぶ写真を撮ったが、沈み橋から大屋戸の方を撮影した写真などもある。このような写真を差し込んでいきたいと思う。

○会長

屋上からの写真もいい写真を見せていただいたこともある。

○事務局

7月7日のライトダウンデーで真っ暗な名張といった写真も良いかもしれません。

○会長

次の改訂の時は、子供から大人まで写真や絵を募集してもよいかもしれない。

それなら、計画を一度見てみようという気になるはず。みんなが作った計画という形を出すのも必要かと思う。

達成の報告も後にあるが、目標数値についても、野心的な数値を設定したとき、達成したときは良いが、達成できないと評価が厳しくなる。実現可能な目標を設定してすべてAだったというのも問題がある。無茶な目標を立てて、全然だめでしたというのもだめだが、少しがんばって目指す目標もあっても良いだろうし、先が見通せない目標であるため、安全な数値設定にしようかというものもあってよいと思う。そういう部分を名張らしく、精査をしてやっていきたい。

一般論であるが、野心的でやる気のある人のほうがリスクで、それで達成できないと上司からの評価が厳しいということもある。でも、何にもしなくても達成できるものを目標においても仕方ないし。そのバランスを時間がない中であるが、考えていく必要があると思います。

○事務局

計画の目標値は、環境部局だけのものではない。各部の計画が集まったものになっているので、中間年度の実績を踏まえて、少し頑張れば達成できる目標設定をすべしというご意見をいただきましたので、その数値を担当の部局と、これから確認していきたい。

○委員

国の場合、目標は高いものを掲げます。高い目標だから時間がかかる。公共事業なので時間がかかる。地元の状況などの中で、一つの目標を達成するのは大変だが、目標が低いとだめだという考え方です。

計画を確認したところ、中間値ですでにクリアーしている目標もある。この値を受け、R8はさらに上を目指すのか。また、現状維持とするのか。さらに環境を良くしていくと考えるのか。今の環境が恵まれており、この環境で満足しているので現状維持で十分ですということであれば、はっきりとそれを記載すべきだと思う。

○副会長

事業者の立場では、目標が高すぎるとやる気が無くなってしまいます。低すぎると何をしているのかという話になる。やはり、適材適所というか、環境の目標に対して、値を決めたほうが良いと思います。

○委員

授業であれば、目当てを事業開始に教師が指示して、授業の割り振り会議をして、一人一人がどれだけ理解できたか、どれだけできるようになったかをしているわけですが、目当てを作るにしても、スーパー目当てとといったここまでできればすごいところやこれぐらいだったらできそうだという点でしている。わたしの学校では、SABという3つの目当てを設定して、Aを目指していたがSを達成できたとかをしています。この話とはイコールにならないと思うが、このような取組みをしています。また、数値的な目標を教育委員会とやり取りをしていますが、数字で終わらないようにしなければいけないと考えています。

○委員

目標値設定の背景が、それぞれの部局にあるというの分かりました。さきほど、大西民男委員がおっしゃったように、ここ数年の実績を見て、昨年コロナがあったので、普通であればできたこともできなかったということも多くあったと思うが、それらを踏まえた目標値を、それぞれの部局で考えているのでしょうか。今のままなら達成できるとか、難しいとか現場の生の声を聞けたほうが、実践していく中で良いと思う。

○委員

少し戻りますが、環境をどのように理解しているかという話ですが。全体のトーンが絶対の自分があって外に環境があるという書き方になっているように感じる。P. 8では、環境辞典を引いたら書いていることを羅列している。文化財が入っている点などはすばらしいと思う。環境の中に我々がいる。環境が変わると我々が変わる。我々が変わると環境も変わる。絶対に変わらないわたしと対立概念として環境という書き方に引っ掛かりを感じる。環境を使い捨てにしたら、我々も使い捨てにされるという連動を感じるものが必要だと思う。

それを書き直せというのは難しいが、提案としては、次回まで時間をくれるのであれば、書き直ししたい。社長が座ってって、部下に命令を出しているような印象を文書全体から受ける。

人類が減びても地球は減びない。地球環境が大変だというのが、地球環境が大変ではなく、我々が大変なのだ。その辺を踏まえて全体のトーンが気になっています。

○会長

考え方はわかりますが。それは、文字として起こせるものなのですか。

○委員

時間をいただければ書かせてもらいたいと思う。皆様にもメールなどでお知らせしたい。

○事務局

視点をもう少し教えていただければ、事務局としても書いていきたいと思う。

○委員

P. 9に快適環境計画の位置付けがあるが、総合計画から一方的に矢印が向いている。今や時代は、環境計画を作ってから総合計画を作る時代じゃないか。環境があつて、その環境を享受する、それに関わって総合計画があるのではないかと理解している。せめて、総合計画とプランがあつちとこっちの矢印になればよいと思っています。

○会長

総合計画の見直しなどのときに反映を考えれば良いかもしれないが、大体、総合計画がトップにあるというのが普通だと思う。

今後も、コミュニケーションを図りながら考えますが、これは、この形になると思います。

(6) 報告：第三次なばり快適環境プラン実行計画令和2年度成果報告について(資料3)

○会長

資料3を事務局から説明願います。そのあと、議論したいと思います。

○事務局

資料3は、参考資料として渡しているものです。快適環境プランの達成状況を示したものであります。令和2年度については、作成の時期になっていないので、まだ数字が入っていないものもあるため未定稿という形になっています。

P.4をご覧くださいと、プランの施策項目があり、それについて総合評価ABCが載っています。これについては、次のページで目標があり、その具体的な内容が書いてあり、その担当部署が書いています。その部署が、本年度の取組がABC評価でどうかという、担当者目線で評価を行っているものです。

それがp32まで続き、p33からは客観的評価となっている。名張市の環境が良くなっているという数字などについては、2000人のアンケートの数字を入れています。

令和2年度の達成状況などについては、会議のたびに最新の数値を追記してお示したいと考えています。

○会長

資料3で疑問とかあれば伺います。全体に関する部分でも良いです。

○委員

指標1のほうで、地域づくり組織が行う環境にかかわる事業を行った回数という文言がありますが、花筏がカウントされていますか。

○事務局

地域づくり組織から提供されている事業報告の中から地域経営室がピックアップしています。

○委員

P.5の水質の保全などがBになっていたり、生態系の保全がBとなっていたりするが、なぜAじゃないのかと思っている。

今更、指標を変えることは難しいと思うが、何をもって評価しているのか。名張川はBODだけで考えると、環境基準を十分にクリアーしています。それでもBということは、環境省に環境基準をさらに上げてもらうということになるのか。調査をしたことだけで、ABCと評価をしてよいのか。とか見せ方もあると思うが、この辺を工夫すべきと考えます。

○委員

総合評価のつけ方の指標が分からない。生物に関する指標についても指標1では数値的にクリアーしているものに対しても取組がBとなっているものもある。部署内の評価であるためか、はっきりしていないと感じる。

○委員

役所の中から見た評価となっており、住民目線の評価となっていないのではないのでしょうか。

○事務局

A B Cにつきましては、おっしゃるとおり、それぞれの部署の評価となっており、それぞれ取組内容をあげ、それに対してA：順調に推進している、B：更なる推進が必要、C：取組みが遅れているという形で相対的に評価しています。

さきほどからもご指摘いただきましたように、それぞれの部署でよく努力しているという評価の中でAとしている部署もあれば、まだまだできるはずだという思いの中でBやCを選択している部署もあると思います。今現在は、このような形にしています。

○委員

国では、指標は一般の方がわかりやすいものにすることとなっています。例えば、「鮎でも快適暮らせる川を目指します」とします。そして、具体的な数値としてBOD1とかを定めます。また、それを実現するために、水質検査を○回しますとか、下水道普及率を○%にしますとかは、内部的な指標として、対外的な指標はできるだけわかりやすいものにするとしています。3年間の取組で鮎が住めるようになりましたとかのほうが分かりやすいし、理解しやすいのではないのでしょうか。

○委員

頑張ってくれているのかもしれないが、この評価ほど、市民は、市の取組を評価していない。ここの川はキレイがだが、他は違うといった視点で見えています。下水道も100%になっていません。自分たちが住んでいる住宅以外の地域では、まだまだ整備されていない。このAという評価が本当に市民が感じている評価であるとは思えません。

○事務局

市民の皆様にお示ししている客観的な指標としては、第3章が、それにあたると思っています。行政が“した”や“しなかった”という視点は、知りたくないというのであれば、このA B Cの評価は掲載しないという考え方もあると思います。

担当室からは、何をもってAなのかBなのかといった報告ももらっているが、それらをすべて報告書として纏めると膨大なものとなるので、それは掲載していません。

○会長

県は、なんでもかんでも目標値を定めます。100%ならA、80%ならB、それ以下ならCとしている。その場合79%だと、わずか1%の違いでCとなる。そうなると、叩かれてしまう。79%でも80%でも一緒ではないでしょうか。数値で考えると厳しくなっています。

名張市の計画は緩いのかもかもしれませんが、すべてに数値目標を設定するといった必要はないと思います。

○委員

都市景観も努力しているのでCという評価が出るのはつらいが、内部だけの評価であれば、問題ないと考えます。ABCだけが外へ出ると、説明しきれないと思う。簡単に独り歩きするのはよろしくないように思います。

○会長

これは、公表している資料なのですか。

○事務局

これは、公表してる資料です。しかし、具体的な指標のみの公表とすべきものかもしれないと、ご意見をいただいて考えているところです。

○委員

指標の考え方は、これを機会に考えていってもよいのではないかと思います。名張川はきれいなので、Bとかではおかしいと思う。

BODだけが指標となっているが、国の指標もどの魚が住めるとかという指標に変えいます。

○委員

生き物の指標がいいと思います。普段の活動でも、生き物が住める川を維持しようという話をしています。

○会長

環境だけでなく、あらゆる指標は、客観的なものの方が良いと思うが、時代が変わって行く中で、見直しが必要な時期に来ているのではないのでしょうか。運輸部門で排気ガスを出さ

ないものを導入しようとして、電気とか水素自動車を買うとなるが、車が高いため、国の補助がない限り厳しい。それぞれがおかれている背景が違うものをすべて納得できるように纏めるのは難しい。

名張市はお金があるんですか。公用車へのクリーンエネルギー自動車の導入なんて項目もあります。

○事務局

電気自動車は1台しかない。ハイブリットを数値にいれている。その項目に対しては、名張市は遅れていると思う。ハイブリットは今や常識であると考える。

○委員

自分は、電気バイクで本日来ている。客観的数値での評価は難しいと思う。オープンにした場合は特に難しい。生き物であっても、一種だけいるのではなく、何種いるかが大切ですが、それを言い出したら、指標は非常に難しい。今まであった数値目標を、3だったものを4に上げるといった、1増えた、2増えたという、増えた部分を評価する仕組みが必要だと思う。これを言い出すと、根本見直しになってしまいますが。

○事務局

今回は、中間見直しという形であるので、ご意見は聞かせていただき次の計画作成時には、考慮していきたいが、今回は、そこまでの変更はできません。

各部署で、集まって話を聞くことができればよいが、中間見直しでは、そこまでもできません。担当者によって評価が違うことになっているのは、次回の課題とさせてほしい。

○会長

我々はこれからの5年後を見据えた見直しということで、次回の9月の会議までに、今日言えなかった部分もあるでしょうし、事務局とコミュニケーションを図っていただき、明らかに足りない部分や議論が必要な部分を洗い出す作業をお願いしたいと思います。

時間も来ているので、本日の議論はこれで終わらせていただきます。最後のその他の項をお願いします

○事務局

報酬の支払いの手続きをお願いしたい方がいらっしゃいますので、解散の後、お話しさせていただきます。

事務局からは、以上です。

○会長

活発的なご意見、建設的な意見、貴重なご意見ありがとうございました。
これをもって、第1回の審議会を終了させていただきます。

○事務局

次回は、9月30日午後2時から庁議室で予定しておりますのでよろしくお願いいたします。